

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	河元 岩男・松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1. パーキンソン病とパーキンソンニズムの違いについて説明できる。2. パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。3. パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。4. 運動失調の分類と代表的疾患を挙げることができる。5. 運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。6. 運動失調に対する運動療法の項目あげ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。7. その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎		◎		適切な情報収集と目標設定から各疾患から考えら得る問題点をあげその根拠を説明できる。	
	◎	◎		◎		パーキンソン病の病態把握とその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	◎	◎		◎		運動失調の病態は空くとその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	◎	◎		◎		各神経疾患の運動療法についてその目的と根拠を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 病気がみえる Vol7 脳・神経 2. パーキンソン病に対する標準的理学療法介入						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション 中枢神経系の解剖・生理				教科書の予習しておく。	
	2	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理①				教科書の予習しておく。	
	3	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病について:評価と問題点				教科書の予習しておく。	
	5	パーキンソン病の理学療法				授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	パーキンソン病の理学療法				教科書の予習しておく。	
	7	パーキンソン病について(ケーススタディ)				授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	運動失調症の病理と脳機能解剖①				教科書の予習しておく。	
	9	運動失調症の病理と脳機能解剖②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	運動失調の評価と問題点				教科書の予習しておく。	
	11	運動失調の理学療法				授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	運動失調の理学療法(ケーススタディ)				教科書の予習しておく。	
	13	筋萎縮性側索硬化症と多発性筋炎の病態生理				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	神経難病に対する治療アプローチの原則(ICF)				教科書の予習しておく。	
15	パーキンソン病、運動失調症 症例検討 実技テスト含む				授業資料のまとめを復習しておく。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	Neuropathy Ⅱ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	宇戸 友樹		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎		◎		脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	◎	◎		◎		MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	◎	◎		◎		脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	◎	◎		◎		急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
◎	◎		◎		脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	1)原寛美・吉尾雅春(編集):脳卒中理学療法の理論と技術(改定第2版). メジカルビュー社. 2)森惟明・鶴見隆正著:PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見. 医学書院.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	脳血管障害の概念 内容:脳とは?			教科書の予習をしておく。		
	2	脳血管障害の概念 内容:脳卒中とは?			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	脳血管障害の動作分析・歩行分析 内容:脳血管障害の評価(動作分析から解る事)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	脳血管障害の急性期理学療法 内容:脳血管障害の急性期とは、その評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	脳血管障害の回復期理学療法 内容:脳血管障害の回復期とは、その評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	脳血管障害の回復期理学療法 内容:脳血管障害の回復期とは、その評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	脳血管障害の回復期・維持期理学療法 内容:脳血管障害の回復期・維持期とは、その評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	脳血管障害の高次脳機能 内容:脳血管障害の高次脳機能の評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	脳血管障害のMRI・ADL・上肢機能 内容:脳の構造と機能と見方とADL・上肢機能の評価と治療			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	脳血管障害の装具療法 内容:脳血管障害の装具療法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容:脳血管障害の評価・治療の統合と解釈			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容:脳血管障害の評価・治療の統合と解釈			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害 I									
科目名(英)										
単位数	2	時間数	60時間	担当者	仲吉 功治					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年									
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患の理学療法について知る。 4. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 5. 各疾患に対する理学療法を実施できる。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	△	※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				骨関節疾患に関わる解剖学的知識を整理することができる。				
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。				
			○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。				
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。				
○	○		○		ケーススタディを通し、問題点を把握し、その臨床推論過程を整理することができる。					
テキスト・教材 参考図書	1. 標準整形外科 第13版 松野丈夫、中村利孝 監修 医学書院 2017 2. 運動器の運動療法 第1版 小柳磨毅他編 羊土社 2017									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方) 肩関節障害の捉え方(運動学との繋がりを理解する)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	肩関節障害の理学療法(実技) 上肢機能障害の理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。				
	3	上肢機能障害の理学療法(実技) 肩関節障害の理学療法(ケーススタディ)				授業資料の復習をしておくこと。				
	4	肘・手関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 肘・手関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	各組織の治癒過程(創傷、腱損傷、筋損傷) 各組織の治癒過程(創傷、腱損傷、筋損傷)				授業資料の復習をしておくこと。				
	6	股関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 股関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	股関節障害に対する理学療法(実技) 股関節障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。				
	8	膝関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 膝関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	膝関節障害に対する理学療法(実技) 膝関節障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。				
	10	足関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 足関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ				授業資料の復習をしておくこと。				
	12	下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
	13	下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
	14	下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方ケーススタディ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと				
15	まとめ									
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	○				80%			
	小テスト	◎	◎				10%			
	実技レポート	○	◎				10%			
履修上の注意										

科目名	骨関節障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	花田 穂積		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体幹機能障害に対する理学療法の評価およびアプローチの考え方を理解する。 ・ 脊髄損傷、関節リウマチの病態を理解し障害像を把握する。 ・ 各時期に応じた理学療法およびADL動作の特徴を理解し指導できるようになる。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					各疾患について理解でき説明できる	
	○					各疾患について、障害及び問題点を説明でき、どのようなアプローチをすれば良いか説明出来るようになる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 岩崎 洋 編: 脊髄損傷 理学療法マニュアル 第2版. 文光堂. 2015年 2) リハ実践テクニック 関節リウマチ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脊髄損傷の概要 脊髄損傷の発症の原因、歴史的背景				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	脊髄の解剖について 中枢神経(脳・脊髄)、抹消神経、運動・知覚伝導路				授業資料の復習をしておくこと。	
	3	脊髄損傷の理学療法評価 損傷高位の診断: ①皮膚知覚脊髄支配、②筋節、③反射				授業資料の復習をしておくこと。	
	4	頸髄損傷の特徴 ①完全損傷、②不完全損傷の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	頸髄損傷の合併症 ①自律神経障害(起立性低血圧、自律神経過反射、体温調節、褥瘡など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	6	頸髄損傷の合併症 ②排尿・排便障害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	頸髄損傷の合併症 ③呼吸障害				授業資料の復習をしておくこと。	
	8	脊髄損傷における評価及び運動療法 急性期、回復期、維持期における理学療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	頸髄損傷における理学療法 損傷レベルに応じた基本動作(寝返り～起き上がり、移乗、座位保持、車いす操				授業資料の復習をしておくこと。	
	10	胸・腰・仙髄損傷における理学療法 損傷レベルに応じた基本動作(移乗、座位保持、車いす操作、歩行)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	その他脊髄疾患: 腰痛症、頸髄症の症状、原因及び運動療法 関節リウマチの概要: 原因、疫学的特徴				授業資料の復習をしておくこと。	
	12	関節リウマチの症状及び治療について ①変形の進行過程、②合併症、③薬物療法について				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	13	関節リウマチの理学療法について ①リウマチ体操、②各関節の運動療法、③ADL指導				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	14	関節リウマチの症例検討 脊髄損傷の症例検討				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
15	脊髄損傷及び関節リウマチのまとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎		○		80%
	小テスト		◎				10%
	レポート		○				10%
履修上の注意							

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	心疾患は悪性腫瘍の次の死亡原因となっている。また生活スタイルの変化によって生活習慣病の一つである。心疾患及び糖尿病の発生機序、その運動療法を理解することは、予防的理学療法にもつながり、健康寿命の延長にも貢献できる。代表的な心疾患及び糖尿病に対する理学療法について紹介をする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○						
	○						
	○	○					
	○						
	○	○					
目標	運動に必要なエネルギー代謝と循環応答、ATPの分解を踏まえて説明ができる						
目標	代表的な虚血性心疾患の病態を特徴と発生機序を踏まえて説明ができる						
目標	代表的な異常心電図の特徴を踏まえて説明・判断ができる						
目標	METs及びエネルギー消費の過程について説明ができる						
目標	運動処方と運動療法の考え方を踏まえて、METs及びリスク管理の視点から説明・立案ができる						
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法循環・代謝」 石川朗十・木村雅彦 編 参考文献:1)芳賀敏彦;リハビリテーション医学講座17巻.循環器・呼吸器疾患.医歯薬出版株式会社 2) 奈良勲,鎌倉矩子監修;標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学.医学書院 3)黒澤一,佐野裕子;呼吸リハビリテーション.学研						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	エネルギー代謝と栄養について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	2	循環器系の解剖と生理			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	3	運動時のエネルギー代謝と循環器の応答			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	4	心肺運動負荷試験演習			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	5	心電図の基本、狭心症と心筋梗塞の特徴について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	6	運動負荷試験発表、異常心電図の見方			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	7	異常心電図、心電図読解			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	8	虚血性心疾患の発生機序と特徴・運動療法について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	9	心臓弁膜症と大動脈の疾患とその運動療法について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	10	小テスト、大動脈の疾患			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	11	循環器リハビリの考え方と運動耐容能			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	12	実技(バイタル測定、運動処方)			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	13	糖尿病の発生機序と代謝の仕組み①			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	14	糖尿病の発生機序と代謝の仕組み②			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)発表を3回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				15%
	発表	○	◎		◎		15%
履修上の注意							

科目名	小児発達障害						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松岡 美紀		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部3年						
授業概要	・小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児理学療法の考え方、対象疾患について説明できる	
	○	○				原始反射と姿勢反射について説明できる	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
	○	○				脳性麻痺の異常発達について説明できる	
	○	○				脳性麻痺の評価と治療について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 :小児理学療法学テキスト南江堂.2010 その他:国家試験を使って、ワーク形式で行っていきます。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方			授業内容に該当する指定教科書の部分を読んでおく		
	2	脳の発達と随意運動の始まり			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	3	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について①			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	4	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について②			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	5	脳性麻痺の概念・病態について 脳性麻痺のタイプ別特徴について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	6	NICUの理学療法・評価について(GMFCS・GMFM・PEDIなど) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	7	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(両麻痺) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	9	脳性麻痺の特異的運動発達について(アテトーゼ) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	10	脳性麻痺の評価(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	11	脳性麻痺の評価と解釈(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	12	脳性麻痺の治療の考え方(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	13	ケーススタディまとめ			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	14	その他の小児疾患について(筋ジス・広汎性発達障害含む)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをまとめる		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で予習をもとに発表してもらおう。また、授業中の挙手での発言も採点する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	レポート	○	○				20%
	発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意							